

上位進出を狙ったレース序盤、突然のトラブルでリタイア

B-Max Racing Team (SF チーム代表 宮田雅史) は、6 月 18~19 日、スポーツランド SUGO で行われた全日本スーパーフォーミュラ選手権第 5 戦に参戦しましたが、決勝レース序盤でブレーキシステムのトラブルからクラッシュし、戦わずしてレースを終えてしまいました。

レースウィークに梅雨入りしたとは思えない好天に恵まれた SUGO 戦。松下選手は予選 Q1 を突破し最低限の目標はクリアしましたが、納得できる結果ではありませんでした。クルマをアジャストして臨んだ決勝は、好感触を得ていただけに残念な結果になりましたが、切り替えて開幕大会のリベンジ戦となる富士大会に臨みます。

■予選 (18 日 (土) Q1 : 午後 2 時 10 分~10 分間 / Q2 : 午後 2 時 45 分~7 分間)

予選日、レースウィークの走りはじめとなる午前中のフリー走行では 9 位とまずまずの位置でしたが、納得のできるレベルにはなく、セッティングを変更して予選に臨みました。

予選 Q1 A グループの開始早々にカモシカがコースを横切るとい珍しいアクシデントで中断。仕切り直しとなった予選では、終盤に各車がタイムアタックするなか、松下選手はトップから 0.4 秒遅れの 1 分 05 秒 552 で 6 位とギリギリながらも Q1 を通過しました。

Q2 は上位陣が 1 分 04 秒台に入れるなか、松下選手も渾身のアタックを試みますが、クルマのバランスが万全ではなく、大幅にタイムアップすることは叶いませんでした。



	ドライバー	セッション		タイム/順位
50 号車	松下信治	予選	Q1 (順位)	1 分 05 秒 552 (6/10)
			Q2 (順位)	1 分 05 秒 248 (10/12)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：29.2 度、路面温度：45.1 度

■決勝 (19日 (日) 午後2時30分～49周)

決勝日は朝から真夏のような天候となりました。松下選手は予選 Q1 で他車への妨害行為があったとして 2 グリッド降格の 12 番グリッドからのスタートとなりました。

松下選手は得意のスタートで 3 台を抜き 9 位までポジションアップしますが、スタート直後の 1 コーナーで山下選手がスピン、ストップしたため、セーフティカーが導入されました。

7 周が終了したところでリスタートとなり、松下選手は前を行く牧野選手のアウト側から抜きにかかりました。しかし、その瞬間コントロールを失い 1 コーナーアウト側のバリアにクラッシュ。ここでレースを終えました。

クラッシュの原因ですが、戻ってきたマシンにメカニカル的な要因は無かったことから、SC ラン中のブレーキフルードの沸騰によるフロントブレーキのペーパーロックだと思われ、現在チームで調査中です。

レースはセーフティカー導入などがあり、70 分 (49 周) のタイムレースとなりましたが、サッシャ・フェネストラズ選手がスーパーフォーミュラ初優勝を飾りました。



50 号車	ドライバー 松下信治	セッション 決勝	順位	タイム／順位 リタイア	Point (累計) 0 (21)
			ベストタイム	-----	

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：30.7 度、路面温度：45.7 度



Press Release

2022.6.24

B-Max Racing Team

B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部

252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2

TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940

<http://www.b-maxracing.co.jp/>

■ チーム監督 本山 哲コメント

12番手からのスタートでしたが、決勝は6位以内を目指していました。この週末は出だしから決して良いとは言えませんでした。チームとしてポイント圏内でフィニッシュする力がありますので、粘り強く走って次に繋げようという思いでした。突然のトラブルでしたが、こういうことが起きるのもレースですから仕方ないと思います。気持ちを切り替えて次戦に向け頑張ります。

■ チーフエンジニア 田坂泰啓コメント

土曜日の走り始めからやや苦戦していました。予選も満足できる状態ではなかったですね。ただ、決勝前のウォームアップ走行では戦えるレベルにまでできていましたので、良いレースができそうだと楽しみにしていました。それだけに残念な結果でした。

■ ドライバー 松下信治選手コメント

スタートは決まって9位まで上がり、リスタートでは8位に上がりましたが、その途端にブレーキが効かない状態になりクラッシュ、リタイアになってしまいました。クルマは決勝では良い感触でしたので、走り続けていれば順位を上げることができたと思います。それだけに残念ですね。鈴鹿以降、流れが悪いのでクルマをしっかりと直して、富士で頑張りたいと思います。



Press Release

2022.6.24

B-Max Racing Team

B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部

252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2

TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940

<http://www.b-maxracing.co.jp/>

